

JEWEL

1990●5月号

通巻181号●目次



COVER

photo:YOSHIKI TODA

art direction : TAN OHE

(STRANGE FRUITS)

coordinate : SHIA NAGAHAMA

graphic design : KOUKI HIRATA

(STRANGE FRUITS)

hair & make up : KENICHI SAIJYO

(mod' s hair)

stylist : HIROMI HOSODA

model : IRENE

dress : NICOLE (blouse : ¥18,000)

JEWEL

CONTENTS

MAY

スペシャル

春のジュウリー美観

美しき民女^{なみびと} 3

オリエンタルダイヤモンド工業
東京貴宝
伊東商店
柏圭

種子/プランタン 49

大沢商会
村木貿易
ワカツキ/寿菱
東京ビコー

エッセイ 14

ヨーロッパの時/モーリス・パンゲ

'90ダイヤモンド国際賞 29

福光夫のアンティークコレクション 12

エマーユ・ジュウリー

カンサイ・ジュウリー 18

シリアル

ジュエル・レポート 23

日本経済新聞のこの無定見ぶり
ダイヤモンド・カラー原器とは何か
'90貴金属相場はどうなるか?

トレンド

プロポーザル 22

'90春夏コレクションは自然志向

ファッション ベアーのジュエリスト 20

ワールド 海外のジュウリー作品展 34

アート <男のネック>展 36

イベント 東京芸大大学院・鍍金科学生展 38

ミキモト<世界印章展>

エマイユ 第23回日本七宝作家協会展 33

ガイド

じゅうりい・しょっぴんぐ・なう 26

3月・4月いいものかいたい

フィッティング・ルーム 27

ミワ

Q&A こんなダイヤモンドは買うべきでしょうか 28

インビテーション 42

今月のタロット 46

エンジョイ・ジュウリー 44

ノートレット 43

私の宝石店 58

本社ガイド 48

JEWEL

VOL. XVII

No.5

BEAUTY OF EXISTENCE

THE PICTURESQUE WOMAN 3

An exotic woman stands in the oriental mood. That mood is suitable for her. The beautiful jewelry that she wears on the dress are new design from '90 Platinum Jewelry Fair. Platinum jewelry attract women's attention.

THE SEED AND "PRINTEMPS" 49

Now it's the best season. The mysterious buds germinate from strange seeds. And soon, the fresh jewelry are in bloom. We present you some brand-new jewelry that you feel like a wearing.

ESSAY 14

"The time in Europe" was written by Maurice Pinguet, a graduate lecturer at WASEDA UNIVERSITY.

DIAMONDS INTERNATIONAL AWARDS 1990 29

The subscribed works in number were 2, 109. The winners were 27, then Japanese were 9. The ceremony of awarding honors was held at Cercle Interallie in Paris, France.

KAJI MITSUO ANTIQUE JEWELRY COLLECTION 12

Mr. Mitsuo kaji is a famous gem appraiser in Japan. These are his collection of "Email" in the 19 century and Cameo.

KANSAI. Y. JEWELRY 18

Mr.Kansai Yamamoto is a international fashion designer in Japan. ROI creations Co. Ltd. offers new designed jewelry by Kansai. Y. for sale.

FOREIGN JEWELRY DESIGNERS 34

We introduce you the works of 5 foreign jewelry designers, Pat Flynn, Jim Cotter, Gry Eide,Christina Smith and David Watkins.

<MEN'S NECK...>EXHIBITION 37

Art exhibition of the 3rd <Men's neck...> was held from 22 to 27 Jan. at Masuda Studio in Shinjuku, Tokyo. We can find it wonderful to see the works of Artists. Wahei Ikezawa, Minato Nakamura, Yoshio Kitayama, Masuo Ikeda, Masako Hamaguchi and Mieko Mat-sue.

MASSCOMMUNICATION 23

About the word-confusion of "Platinum" of The Nihonkeizai.

MARKET 24

About the master-stones for color grading of diamond.

FORECAST 25

About the precions metal guotation in1990.

編集方針

社是<人間的識見・社会的貢献・世界的視園>にもとづき、ジュウリーをかう人・創る人・売る人のために、可能な限り、正確な情報を提供します。また、最終的には読者大衆の場に立ち、同時に小誌記事への反対意見も掲載することを約束します。

JEWEL: REINE PUBLISHING CO.,LTD.
Hamada bldg. 2-38chome Ichigaya tamachi
Shinjukuku Tokyo 162 Japan
Phone (03) 260-7670-267-2628
TELE FAX (03)267-2444

200号

あ・と

JEWEL 20周年まで 20号

それはスターリングラードの冬であった。1943年の1月。包囲された町の廃墟の中、パウルス元帥の部隊が、ヒトラーの命令にもかかわらず、いましがた降伏したところで、既にドイツ人捕虜の長い列がよろめきながらシベリアの収容所に向かっていた。そこには、飢えと寒さと病い、そして死が待っていた。 よるな

戦争はまだとても終わってなどいなかったし、あの暗い日々にあっては、決して終わることがないとの印象さえ与えていた。だがヨーロッパ制覇に取り憑かれたふたりの残虐な独裁者が生死を賭けて対峙した果たし合いの結末には、もう疑いはなかった。ロシアの戦車は容赦なく中央ヨーロッパへと進行し、ほどなくあらゆるところにスターリンの支配を打ち立てようとしていたのだ。その、久しく揺るごうとしなかった鉄壁の支配が、ここ数週間のうちににわかに風化し、突如眼下に崩れるのを、我々は目にしたばかりだ。

1943年1月。3年前の破局によって茫然自失の態にあったヴィシー政権下のフランス、スターリングラードから西に隔たること三千キロの土地にあった私は、当時十四歳、多くの人々のように兵役に取られるにはまだ少し幼すぎたが、新聞やラジオが戦争について教えてくれるあらゆることに一心に、気遣わしくも無力な関心を寄せていた。壮大にして怒りに狂った世界史の光景が、悪夢のように尾をひいて続いていた。私は聞いたこともない都市の名を習っていった。カラコフ、バクー、ロストフといった町が、次から次へと包囲されては攻略され、奪回されては抹消されてゆき、夕方になるとランプの下で私は、一方に黒、他方に赤の小旗を幾つもヨーロッパとロシアの地図のうえで移動させては、攻勢や逆襲に翻弄されるがままに任せたものである。

毎朝、凍った土を踏んで私は生まれた町にある小学校まで通ったが、そこでは既にラテン語とドイツ語を学び始めていた。暖房のない教室で、1940年に敗北を喫したフランス軍の外套のお古にくるまって縮こまっている級友たちに混じって、私はドイツ語の教科書を手にして、格変化や動詞の活用を復習したものだが、時にはゲーテの「野茨」のような簡単な詩のおさらいもあって、そのはかなくも優しい慰めには、はや失われて久しい、ある遠い世界の、半ば消し去られた微笑のようなものがあつた。

このドイツ語の教科書には、我々初学者の第一歩を勇気づけるための標題がついていた。“Wer will, der kann”精神一統何事かならざらん。抗いがたいが軽率なこのニーチェばりの格言を、おそらくヒトラーは無謬のものとして信じていたのだろう。1941年6月13日、ロシア侵入に際しても、彼はおそらくこの言葉をもって、その最後の躊躇を掃き払ったのもあつたろうか。その陰惨な憤怒のさなかで、これに似た常套句をしばしば連呼しては、パウルス元帥に回避可能な降伏をあくまで回避すべし、と命令していたのに違いない。為せば成る？人類を脅かす最大の危険は、信じたいことを信じてしまい、余りに何度も繰り返したことを、ついには本当だと思いついでしまうことだ。1943年の最初の何週間かの間、為せば成る式の主意

Jewell

no 181

Mar. 1990

ヨーロッパの時

モーリス・パンゲ

Maurice Pinguet

翻訳／稲賀繁美

（よむ）

主義がその犠牲者たちを巻き込んで連れてゆく先が、死と破滅であることを理解するに足る理性を、はたしてヒトラーはなお保持していたのであろうか。

Wer will, der kann と題されたこの小さな教科書は、いくつかの挿絵で飾られていたが、今日の学童には惨めな代物と映るであろうその粗末な白黒写真も、デア、デス、デム、デンといった格変化や動詞活用の味気無い一覧表の合間にそここことなく散りばめられていて、我々にとっては、あえかな休息、なにがしかの恩寵をもたらしてくれるものだった。そうした挿絵のなかでなによりも私の好んだのが、ペ~~ター~~・ブリューゲルの描いた素晴らしい風景画、一年十二カ月の連作中の最後の月をあらわした、《雪のなかの狩り人たち》の複製であった。

1565年作のこの作品は、ウィーンの美術館で鑑賞できるが、私にとってはヨーロッパの絵画のなかで最も美しい風景画である。複製写真からは色彩の階調は消え去ってしまっていたわけだが、それでも光景の主要な特徴は見分けることができ、それを取り巻く雪という峻厳な舞台装置の苛酷なたたずまいが、我々の生きていた暗く押し黙った時局の印象や、戦時の雰囲気と通じあっていた。今でも、疲れで重くなった足を深い雪に取られる、このブリューゲルの三人の狩り人を見直す度に、あの時代のぼんやりとした思い出が沸き起こってくる。十匹ほどの犬が居て、その輪郭が青白い地面のうえにくっきりと浮かび上がっているが、彼らを引き連れた狩り人たちは、いましがた小さな小山の頂きにたどり着いたところだ。日の入りも近く、もはや雪の薄明かりがかすかに照らしだしているだけの田野のうえ一面に、夜が拡がろうとしている。幸い、歩いてきた人々は、村はずれの最初の何軒かの家先にまでたどりついていて、身をのりだすようにして村を見下ろしている。あと何歩かで自分たちの家がふたたび目に入るのだ、雪に覆われた屋根のしたで自分たちを待っているわが家が。灰色の一日の悲しみも、人間の心の知りうる限り最も深いよろこび、帰還の喜びを前にすれば、消え去ってしまうのである。

左手に、看板からそれと知られるように、旅籠があつて、村の入り口を占めており、その扉の前の大きな焚火は祝宴の準備の有り様を照らし出し、雪のなかで輝く炎は祝祭を予告しているようだ。

右手には凍った池がひろがっていて、子供たちが遊んでいる。老人たちには辛い大寒も、幼少の年月には幸福をもたらすものでありつづけるだろう。ひとたび雪が降れば、親しんだ風景も様変わりし、日常の生活に魔法がかけられて、その魅惑はほとんど陶酔の境に達するのだから。

なだらかな小山、池、木々、家々、おおきな灰色の空、そうしたもののすべてを、ブリューゲルは彼の生地であるフランドルやブラバント、あのアントワープとブリュッセルに挟まれた土地にみいだすことができただろう。だが、狩り人たちの目が遠くを見やり、その視線を上げさえすれば、そこには親しんだ風景の限界を越えるよう

ないまひとつの風景が霧^雲になる。彼方、はるか右遠方に現れるのは誇り高き山々である。それは、ブリューゲルが1550年、二十五歳の折りに企てた長い旅行の際に見知り、絵筆に移すことを覚えた、アルプスの姿である。その道行きは、当時遍歴の学生たち、とりわけイタリア美術の壮麗さに惹きつけられた若き画学生たちのしたような、徒歩のゆっくりとしたゆまぬ旅であった。そうしてブリューゲルはフランスを横切^りてリヨンまで行き、スイスを経由してイタリアに南下し、フィレンツェまで、ローマまでと、道すがら目にした風景をたゆまずペンや鉛筆に描きとめては進んだのである。直接自然そのものから貰い受けた、この教えに従ったのち、ブリューゲルはアルプス特有の景観の細部を、旅の月日の思い出のように、自分の作品に導入して、喜びを覚えた。



LES CHASSEURS DANS LA NEIGE Vienne. kunsthistorisches Museum [n.52A] Ensemble (162cm)

私のドイツ語教科書の粗末な写真では、元より色彩を失われ、大気や天候、時刻の魔法も存りはしなかった。それでも狩り人たちの眼が次々と見つけるふたつの世界の間^にに抜がる空間の深さは感じられた。まず家々、旅籠、それに子供たちの遊びという、近くて親しい世界、それは身を乗り出すようにして見下ろせば、容易に全体を把握できるひとかたまりの世界である。だが視線が伸びてゆき、親しい事物の範囲を越えてしまうと、鳥が一羽飛んでいる空を横切^りて、視線はひと飛び^にに、地平線を開く山々の麓にたどり着く。そのとき視線は、遠方に現れた今ひとつの世界によって区切られ、見おろされている自分に気付く。およそ空間の詩学というもの、親しい舞台設定の背後に未知なる遠方という限界を立てる、このような遠近の弁証法に敏感なものだ。

このように美しい風景画法と透視画法とを目にすると、あれほどの研究と努力によって十四世紀から十六世紀にかけて征服しおおせていた、あの三次元の魔術を、十九世紀終わりに至ってなおざりにする選択を下して以来、ヨーロッパ絵画が失ってしまったものの総体がいかほどのものであったか、測定できようというものだ。不可視ではあるが潜在する三次元というものだけが、形象たちの間に空間を穿つのである。遠方と彼方への強迫観念が視線を魅了して、風景の核心に開かれた深みへと誘うのである。

1550年、アントワープからローマへとブリューゲルが横断した当時のヨーロッパは、既に信仰の自由という息吹きの洗礼を受けていた。長い中世の冬は終わりを告げていた。キリスト教の教会権力が、聖アウグスティヌスとグレゴリ十七世の論理に沿って築きあげていた壮大な建造物には、ルターを加えた度重なる打撃のために、はじめて幾つかの亀裂が現れていた。カトリックという言葉がまさしく全体主義を意味することを、人はしばしば忘れる。今日の教会が、現代のもろもろの全体主義と戦って有能ぶりを発揮するのは、そもそも教会の抑圧の様々な手口と長い間親しんできたからであり、それらの手口に対抗できるのは、教会がもはや自らその手口を用いなくなったからにほかならない。16

ブリューゲルはだから時折ヨーロッパを揺るがす自由の目覚めのひとつに参画していたわけだ。ほどなく彼は宗教戦争が猛威をふるうのを目にする。スペイン王フェリペ二世は恐怖政治によって、反抗するオランダを支配下に置こうとした。画家がその村祭り（ケルメス）や婚礼、無邪気な祝宴の様子を描いた、隆盛のむら村にも、¹⁷ アルバ公率いる占領軍が、恐怖と悲惨、そして死を広めにやってくる。アルバ公がオランダの総督となった、その1565年に描かれた三人の狩り人も、おそらくはスペインの占領部隊から自分たちのむら村を守るために、小競り合いを演ずる準備が出来ているのだろう。

終わろうとする冬の間中、私はブリューゲルの狩り人たちを前にして、かつてヨーロッパが経験した、戦争と抑圧の長い冬のことをしばしば思いやった。あれほどの苦しみの記憶に、まず思いやりの情を感じずにおられようか。だがまたヨーロッパが、張本人でありながら同時に犠牲ともなった、あの道を外れた傲慢と狂気の略奪に義憤を感じずにおられようか。今日あたかも終わろうとしているのが、そうした数ある戦争のなかでも最も長く最も不可解な戦争であって、それがつまり冷戦が終息しようとしているという事態なのだ。そして早くもあらたな騒乱が、幾つも地平に顔をちらつかせている。

あらたな歴史の最初の春がヨーロッパに明けようとしている。希望も大きい、大きいだけに、それが影のようにひき連れている不安も大きい。あらたな時、それはヨーロッパの時だ。厳かに時は告げられているが、それはまた、なお定かならず覆われたままの将来が、内省と覚悟とを懇願する厳粛な時でもある。

(早稲田大学・大学院講師)